

[MSスクエア] 食と流通のこれからを考える

三菱食品

MS Square

No. 59
Mar-Apr.
2022



[特集]

「時短+豊かさ」へ

コロナ禍で変わりゆく 家庭内食のあり方

[自然を愛するレストラン] 第12回

濃厚な甘さが魅力の
希少な黒いちごをスイーツで!
千葉県茂原市「くろいちごCAFE」



今回は……>> 「アクポニハウス」

都市部でも環境負荷を軽減した農業を アクアポニックスのパッケージで実現

サーキュラーエコノミー（循環型経済）

という言葉を耳にする機会が増えてきた。資源をできるだけ循環させて使い、廃棄物の発生を減らす経済モデルのことを意味する。廃棄物を減らしてカーボンニュートラルやSDGsの達成にも貢献する。そうした循環型の考え方を農業生産に取り入れたのが植物と魚を同じシステムで育てる新しい農業「アクアポニックス」だ。

アクアポニックスでは、水耕栽培と養殖を掛け合わせることで循環型農業を実現する。その仕組みは、魚の排せつ物を微生物が分解し、植物がそれを栄養として吸収。植物により浄化された水は再び魚の水槽へと戻るといったもの。生産性と環境配慮の両立ができる生産システムなのだ。このアクアポニックスを手軽にビジネスとして活用できるようにしたのが、アクポニが提供する「アクポニハウス」だ。ア

アクポニハウス

アクアポニックスは、アクアカルチャー（養殖）とハイドロポニックス（水耕栽培）を組み合わせた造語。そのアクアポニックスの専門企業アクポニは、パッケージ型の農業「アクポニハウス」の提供を2021年11月に開始した。駐車場1台分のスペースの「アクポニハウス5」に加えて、大型の「同30」「同100」を用意する。2月末～3月、神奈川県藤沢市にアクポニハウスのモデル農園を開設予定。

<https://aquaponics.co.jp/>



クポニは「さかな畑」のブランドでアクアポニックスのソリューションを提供する専門企業で、アクポニハウスは生産設備をパッケージ化した新製品。アクアポニックスを容易に導入できるようになる。

アクポニハウスは、最小では駐車場1台分のスペースがあれば設置できるコンパクトな設計が特徴だ。その中に最新型の「縦型水耕システム」と「養殖設備」を立体的に組み合わせ、1㎡当たりの収量を平段栽培の最大7倍にまで引き上げた。駐車場1台分のスペースで最大毎月660株程度が栽培可能という。

アクポニハウスを利用すれば、土地の狭い都市部でもアクアポニックス生産が可能となる。工場や店舗の排熱などのエネルギーや遊休地を有効に活用し、地産地消の循環型経済の実現が期待できる。今晚の食卓の野菜が、アクアポニックスの収穫物になる日が近づいているようだ。